

無人飛行機開発を加速

PDエアロスペース

2012.8.19
中部経済 ③

新型エンジンで特許

15年3月 半径5キロ飛行目標

有人宇宙往復機の開発を目指すPDエアロスペース(本社名古屋市長区有松3519、緒川修治社長、電話052・621・6996)は、無人飛行機(無人機)開発を加速する。今年6月、新型エンジンに関する特許を取得。併せて、愛知県の補助金制度を活用し遠隔操縦システムの開発に乗り出す。無人機を、災害発生時の情報収集手段などに活用する考え。15年3月をめどに、半径5キロの飛行能力を持つ無人機の実用化を目指す。

(山田和幸)

「新あいち創造研究開発補助金」の採択企業に選ばれた。

開発中の無人機は、高い即応性や機動性を持ち、危険な場所へも飛行できることが特徴。「災害発生時の情報収集や局地的な気象観測、海難救助支援にも力を発揮できる」(緒川社長)という。

最終的には、40キロ程度離れた場所でも飛行可能な無人機の開発を目指している。

緒川社長は「完成した無人機を各都道府県に2機程度配備できれ

ば、情報収集に力を発揮できるとPRする。万円以下の販売を目標に、実証実験を繰り返して開発を進める。



遠隔操縦システムや新型エンジンを搭載予定の実証機



緒川修治社長

今年6月、同社はジェット燃焼とロケット燃焼の切り替えが可能

同社は、高度1000メートルまで到達可能な有人宇宙往復機の開発を目指し07年5月に設立。名古屋大学などの研究機関や民間企業などと連携し、開発を進めている。